

地域の文化や歴史に触れる郷土学習

通学合宿の日程の中には、地域の歴史や特色を知ること、地元への関心を深めることができるような学習の時間を設けました。地域の人材や特色を生かした取り組みをご紹介します。

中央地区の郷土学習

中央公民館では、「大久保校区ってどんなところ？」というテーマで館



市役所付近に残っている貴重な町並みをタウンウォッチング

員の筒井隆義さんに案内してもらい、佐世保川沿いをタウンウォッチングしました。

その中で、市役所裏の八幡橋は、明治22年、市民の寄進により架けられた橋であること。

それ以前は、川の中の飛び石を渡っていたということなどが分かり、現在のよう税金で橋を架ける時代との違いに、子どもたちは驚いていました。

また、道路に対して斜めに架かる「行幸橋」の名前の由来や、付近に残っている歴史的に貴重な町並みの説明もありました。

昔の建物の説明を聞いて、大久保小学校6年の戸田千尋さんは、「それは、どんな漢字を書くのですか」と、熱心に質問していました。

宮地区の郷土学習

宮地区公民館では、合宿中の一日を利用して、地元に住む一瀬正弘さんが「昔の宮と現在の宮の変化」について話をしました。

一瀬さんが子どもたちのころは、現在の小学生が使っているようなランドセルはなかったそうです。また「今よりも自然がたくさん残っていて、よく昆虫採集をしました。虫は後で逃がしていました」と、小さな命を大切にしていた自らの思い出を話しました。

宮小学校4年の橋口志帆さんは、「最初は、難しい話だと分からない



一瀬正弘さんの話を熱心に聞き入る宮小学校の児童



かもしれない」と不安だったそうです。

しかし、分かりやすい内容を選び、子どもたちに優しく語りかける一瀬さんの話には、橋口さんはうなずきながら聞き入っていました。

中央公民館で活躍するコーラスグループが歌声を披露

中央公民館では、合宿中の子どもたちのためにコーラスグループ「おーくぼーいず」が臨時の発表会を開催しました。メンバーの中には大久保小学校にゆかりのある人も多く、また、子どもたちもお風呂を済ませてゆったりとした気分になったようで、会場は和やかな雰囲気になっていました。



力強い歌声が響く「おーくぼーいず」の発表会



「箱根八里」など小学生にもなじみのある数曲をメンバーが披露し、最後の1曲は、みんなで一緒に、大久保小学校の校歌を合唱することになりました。

それまで観客に徹していた子どもたちは、突然の求めに戸惑った様子も見られましたが、「おーくぼーいず」の力強い歌声に誘われて、会場は大合唱となりました。

地域の子どもを支援するボランティアの力



担当する班の献立を検討する実行委員（中央公民館）

通学合宿は、「通学合宿実行委員会」のメンバーを中心とした地域の人たちが、ボランティアで支えています。

計画の段階から何度も話し合いの場を持ち、合宿中は、食事の支度を手伝う人、一緒に寝泊まりする人、お風呂を提供する人と往復の引率者、登校・下校の引率者、郷土学習の講師など、各地区とも約50人の心強い協力者を得て通学合宿は成り立っています。



大久保小学校の児童と古川政子さんご一家

3日間、風呂を提供した木場田町の古川さん。子どもたちは、初めて会う子ばかりでしたが、みんななつこくて、楽しくおしゃべりが弾んだそうです。また、飼い犬の話きっかけに、話題は人の体の発達など、それぞれの家庭では話題に挙げにくいことにも及びました。「ここでの子どもたちは素直な気持ちで質問してくるので、こちらも自然な感じで説明ができました」と古川さん。交流を通して、子どもたちとの間に信頼関係が生まれたことに満足しているそうです。



宮小学校の児童と奥山民代さん

奥山さんは、子どもたちと一緒に公民館に宿泊したり、下校時には公民館の入口で「おかえりなさい」と声をかけて迎えるなど、お母さん代わりとして活躍しました。

「子どもたちの自主性を大切にしたい毎日ですが、食事に関しては、野菜の摂取量が少ないことが気になりました」と言う奥山さん。

公民館の一室には、自主学習を進める子どもたちを優しく見守り励ます奥山さんを頼って、気軽に質問を寄せたり、話し掛ける子どもたちの姿がありました。

地域の児童と触れ合い、今どきの子どもを知る機会

地域のボランティアとして参加した人の中には、すでに子育てを終えた人も多く、通学合宿による小学生との交流は、「今の子どもを知りたい」となっているようです。

実行委員からは、次のような貴重な意見がありました。

- 朝食の献立にパン食を希望する児童が多かったことから食生活の大きな違いを知った
- 一人で布団にシーツを広げようとして、悪戦苦闘している子がいても周囲は何もしない。二人で両端を持つと簡単にできることを大人が教えないと気付かないなど、子ども同士の関係が希薄な面が見て取れた

通学合宿の体験を通して成長した子どもたち

通学合宿に参加した児童は、「地域の子どもは地域で育てよう」という熱意を持った大人たちが、お互いに連携し合う姿を見ることができたようです。

この合宿を通して成長した子どもたちの表情からは、この体験が、いずれ何らかの形で開花することを期待させるものがありました。